

小森はるか+瀬尾夏美「へびと地層」プロジェクト

一般財団法人
川村文化芸術振興財団

人形劇

やまの おおじゃくぬけ

2024

12.8 (日) 13:30-15:10

開場
13時

丸森町 たてやま 館矢間まちづくりセンター (大集会室)

入場無料

丸森の山にすむ、おおきくて、
本当はやさしいへびに会いに行こう



脚本・演出：工藤夏海

原作：瀬尾夏美『やまのおおじゃくぬけ』

主催：「やまのおおじゃくぬけ」実行委員会、小森はるか+瀬尾夏美

企画：工藤夏海 (人形劇団ポンコレラ)、小森はるか+瀬尾夏美

協力：丸森ざっと昔話の会

後援：丸森町、丸森町教育委員会

助成：公益財団法人小笠原敏晶記念財団、一般財団法人川村文化芸術振興財団

丸森の山にすむ、おおきくて、本当はやさしいへびに会いに行こう



■ あらすじ

むかし、むかし、丸森の山のうえに、ちいさな沼があったんだって。
そしてね、雨が降ると、そこからとんでもなく大きなへびが現れたんだって。
山のふもとに村に住む、太郎という働き者の青年が、おっきな荷物を抱えたわらしを
たすけると、お礼にふしぎな絵図をもらいました。
大雨の夜、村人たちがその絵図を開いてみると・・・？



『やまのおおじゃくぬけ』は、令和元年台風を経験した丸森のみなさんの語りと、古くから丸森で語り継がれてきた沼やへびに関する民話に着想を得て生まれた物語です。
今回の人形劇は、仙台の人形劇作家・工藤夏海さんが丸森に通い、丸森のみなさんと一緒に作りあげました。みんなで人形をつくって、語りを練って、おどりを習って……
丸森の魅力がたくさん詰まった人形劇ができました。たのしい人形劇を、ぜひご覧ください。

● 小森はるか + 瀬尾夏美 (Komori Haruka + Seo Natsumi)



©Fuda Naoshi

小森はるか(映像作家)と瀬尾夏美(アーティスト)によるアートユニット。2011年3月、東北沿岸へボランティアに行ったことをきっかけに活動開始。2015年、土地と協働しながら記録をつくる組織・NOOKを設立。現在も、各地での対話の場づくりを行いながら、風景と人びとのことばの記録を軸に制作をしている。丸森町には2016年から通い始める。2022年、寶理屋敷にて「山つなみ/雨間の語らい」展を開催。

● 工藤夏海 (Kudo Natsumi)



宮城県南三陸町生まれ。人形劇団ボンコレラ主宰。絵画、立体、版画、人形と様々な方法で表現をおこなう。2015年頃から小さな布の人形を用いてテーブル上で「まちがい劇場」と称した人形劇未経験者との即興人形劇を始める。2019年から2023年まで、NPO法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局主催のワークショップ「みんなでつくるよ広場の人形劇」のファシリテーターを務める。人形劇がこころの拠り所となるよう活動を続けながら技法の探究をしている。

■ プログラム

13:00-	開場
13:30-	人形劇「やまのおおじゃくぬけ」(40分)
14:15-	休憩(15分)
14:30-	防災トーク「丸森のじゃくぬけの話」
15:10	終了予定 〰



機敷席とパイプ椅子をご用意しております。お好きな方にお座りください。車椅子利用の方もご来場いただけます。
※その他、ご鑑賞のサポートが必要な方は、問い合わせ先までご連絡ください。

■ 出演者

語り：島津信子(丸森ざっと昔話の会)
「上滝沼の大蛇」の語り：佐藤秀夫(丸森ざっと昔話の会)
太郎人形・影絵操演：工藤夏海(人形劇団ボンコレラ)
わらし人形操演：佐藤一恵(みやぎに人形劇場をつくる会)
大蛇人形操演：鈴木悦郎(丸森ざっと昔話の会)、丸森ざっと昔話の会のみなさん
「しあわせのまち」踊り：丸森町のみなさん

■ スタッフ

脚本・演出：工藤夏海
原作：瀬尾夏美『やまのおおじゃくぬけ』
制作協力：島津信子
美術協力：佐竹真紀子、本川東洋子
音響：長崎由幹
映像記録：小森はるか、磯崎未菜
チラシデザイン：磯崎未菜

■ アクセス

丸森町 館矢間(たてやま)まちづくりセンター
〒981-2102
宮城県伊具郡丸森町館矢間館山字大門148番地1
阿武隈急行線 丸森駅から徒歩13分
駐車場あり



■ 問い合わせ

小森はるか+瀬尾夏美 - komori.seo@gmail.com
TEL: 050-5328-6169 (NOOK)
WEB: <http://komori-seo.main.jp/>



みんなで楽しむ人形劇！

